

2019年度 労組リーダー研修会を開催

中国生産性本部と中国労組生産性会議は、8月21日(水)・22日(木)の2日間、ワークピア広島(広島市南区)において「労組リーダー研修会」を開催し、労働組合の役員・リーダーを対象に、中国地方5県から18名の方々にご参加いただきました。

本研修会は、連合中国ブロック連絡会の後援を受け、毎年8月に実施しているもので、労働運動および生産性運動の理念と歴史を振り返るとともに、労働運動に必要な専門知識や、コミュニケーション・リーダーシップといった能力を養成し、組織のさらなる活性化を目指すことを目的としています。

研修講師として、公益財団法人富士社会教育センター 常務理事 鈴木晴彦氏をお迎えし、講義とグループ演習を織り交ぜた研修を行うとともに、2日目の特別講演では、『「働き方」を取り巻く環境と今後の課題～人工知能(AI)の活用等も含めた未来志向の考え方～』と題して、日本労働組合総連合会(連合本部)の副事務局長 矢木孝幸氏からご講演をいただきました。

《研修プログラム》

- ◆ リーダーシップとコミュニケーション
- ◆ 労働組合の歴史と民主的労働運動の基本
- ◆ 労働法のベーシック
- ◆ ケーススタディ
「職場の執行委員へのアプローチ法」
- ◆ 経営分析の基本
- ◆ 労使協議と経営参加
- ◆ 特別講演
- ◆ 目標の策定とアクションプラン



参加者は「コミュニケーション・シート」により、お互いに自己紹介をして心と体の緊張を解きほぐし、コミュニケーションの重要性、コーチング、労働組合の歴史と民主的労働運動の基本など、労働組合として専門性を高める学習へと進んでいきました。ケーススタディでは、職場の課題の明確化と具体的な対処方法についてグループ毎に討議・発表の後、各グループ間で質疑応答を行っていただきました。更に、労使協議のうえで重要なポイントとなる財務諸表の分析や経営分析の基本など、企業の現状や経営のあり方を財務面から見てどのように評価・判断するかについて熱心に学んでいただきました。

また、「目標の策定とアクションプラン」では、「マイ・アクションプラン」として、自身の課題・目標・行動内容を策定したうえで、一人一人が発表し、今後の活動への決意を新たにしました。

参加者からは、「労働組合の歴史や生き立ちなどをあらためて学ぶことができた。」「経営分析については深く考えたことがなく、今後の交渉活動で重要になるポイントを十分に理解できた。」「普段関わることの少ない他労働組合の方々と交流を深めることができ刺激になった。」などの感想をいただきました。